

日本原子力学会 2012 春の年会
再処理リサイクル部会, バックエンド部会合同セッション
「福島第一原子力発電所の事故に起因する環境回復に関する活動の現状」
(「原子力安全」調査専門委員会 クリーンアップ分科会共催)
参加報告

長岡亨*1

3月21日(水), 福井大学にて開催された日本原子力学会 2012 春の年会において, 「福島第一原子力発電所の事故に起因する環境回復に関する活動の現状」に関するセッションが開催された。同セッションは, 再処理リサイクル部会, バックエンド部会の合同セッションとして開催された。



セッション会場の様子

本セッションでは, クリーンアップ分科会のメンバーとしても積極的に活動されてきた河田東海夫氏 (NUMO) が座長を務め, セッションの開催趣旨説明があった後, 3件の講演が行われた。最後には, 講演者をパネリストとして総合討論が行われた (開催プログラムは末尾の通り)。

はじめに, 藤田智成氏 (電中研) より, クリーンアップ分科会の活動についての講演があった。同分科会は, 日本原子力学会が福島第一原子力発電所事故の調査を行う「原子力安全」調査専門委員会として, 「技術分析分科会」, 「放射線影響分科会」とともに, 環境修復を取り扱う分科会 (主査: 井上正 (電中研)) として発足した。

講演では, 分科会の立ち上げの経緯や目的に続いて, これまで行ってきた分科会としての提言の他, 除染技術カタログ, EURANOS 除染技術データシート, 水田における現

地試験 (南相馬市), 福島県との共催フォーラム, 除染情報プラザ (環境省) への協力などの活動報告がなされた。活動の詳細については, 学会 HP の「原子力安全」調査専門委員会情報<クリーンアップ分科会>を参照頂きたい (<http://www.aesj.or.jp/information/fnpp201103/chousasenmoninkai.html>)。

続いて, 中山真一氏 (JAEA 福島環境安全センター) より, 内閣府から JAEA が受託している, 除染モデル実証事業 (福島県内の 12 市町村) についての講演があった。講演では, 事業の実施概要の他, 事業実施に当たって現場で起きているエピソードなどの紹介があった。エピソードの一つとして, 「冬の除染 (JAEA メールマガジンにも掲載とのこと)」のお話があった。積雪によって遮蔽効果が生じること, 土壌の表面が凍結すれば粉塵も発生せずに剥離しやすくなるとの意見もあったが実際には凍結深度が 50cm 程度にまで及んで上手くことが運ばないこと, フレコンバックに充填した除去土壌が凍土であったため, 気温上昇に伴い氷が融けて浸出水として発生すること, そもそも氷点下環境におけるサーベイメータの信頼性など, 数多くのエピソードのお話があり, 現場の悪戦苦闘ぶりが伝わる講演であった。また, 無用な被ばくを避けるため, 測定データに基づいた綿密な作業計画が必要であるとのコメントがあった。

最後の講演では, 神徳敬氏 (大林組) から, 除染モデル実証事業の実施状況についての紹介があった¹。当該事業は, JAEA より企画公募により委託を受けた 3 つの JV (企業共同体) チームにより, 12 市町村を対象に実施されたもので, 大林組を中心とした JV チームは, 警戒区域内の大熊町, 楢葉町および川内村のほか, 広野町を対象に実証事業が実施された。大熊町役場周辺等の除染作業では, 表土の剥ぎ取りなど除染効果が大きい技術を適用し, また空間線量率低減のため, 面的な除染が有効とのことなど, 数多くの写真を示しながら紹介された。また, 除染等に伴う 2 次廃棄物の減容化に関しては, 枯葉堆積層などの焼却処分や土壌分別 (スキャンソート) などの適用性試験内容の

Report on the joint session of the NUCE, the reprocessing and recycle division and clean-up committee in 2012 AESJ Spring Meeting, "Current activity status on environmental restoration by Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident" by member of J. NUCE publishing committee, Toru NAGAOKA (nagaoka@criepi.denken.or.jp)

*1 (財)電力中央研究所 環境科学研究所 バイオテクノロジー領域
 Biotechnology Sector, Environmental Science Research Laboratory, Central Research Institute of Electric Power Industry
 〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子 1646

¹ 本セッション開催の翌週 3 月 26 日に, 「除染モデル実証事業等の成果報告会 (中間報告)」が開催されている。詳細については, 下記 URL を参照ください。
<http://www.jaea.go.jp/fukushima/decon04/decon04-ke.html>

紹介があった。また、面的モニタリング時には、作業者等に線量計および位置測定器をセットし、移動しながら測定することで、線量率分布を詳細に評価できるスキャンプロットが有効であるとのことであった。また、仮置き場の施工試験についても紹介があった。

講演後の総合討論では、学会としていかに貢献していくのか、オープンな議論の場が必要なのではないか、除染の是非など、様々な活発な議論がなされた。最終的には、やはり地元に寄り添うことの重要性が再認識され、本セッションの幕が閉じた。

開催プログラム

座長 (NUMO) 河田東海夫

- (1) 環境修復についてー「原子力安全」調査専門委員会クリーンアップ分科会の活動ー
(電中研) 藤田智成
- (2) 環境修復と除染モデル実証事業
(JAEA) 中山真一
- (3) 環境修復廃棄物の処理・処分の現状と課題
(大林組) 神徳敬
- (4) 総合討論



総合討論の様子